



【学校 HP の QR コード】

今日から12月「師走」交通事故件数は、年間で12月が最も多いと言われています。交通量の多い校区ですので、子どもたちの登下校が心配です。ご家庭や地域の皆様には、子どもたちへのお声かけとともに、ご自身の安全にもお気をつけください。



校長 渡邊 正博

ほめて、共に喜ぶ

11月は、図書委員会による読書祭りが行われました。子どもたちは読書ビンゴなどの企画を楽しみました。私はこれまで、筆者と対話するつもりで本を読みながら、「へえ、そうなのか」とすぐに受け入れてしまうタイプでした。最近は、「本当にそうなのかな？」と批判的(吟味的)に読むことを意識しています。子どもたちが図書館へ足を運ぶように、私もカニミライブで9冊まとめて借り、読書の秋を満喫しました。その中のエッセイ集『哲学な日々ー考えさせない時代に抗して』(野矢茂樹・講談社)の一部をご紹介します。紙面の都合で要約していますので、全文を読みたい方は校長室までお越しください。

＝ほめるのではなく＝

「ほめて育てる」とよく言われる。確かに、ほめられるとやる気が出る。しかし、「ほめて育てる」という方針は根本的には間違っている。何かを為すときには、そのこと自体がもたらす達成感こそが原動力になるのであり、この内側から生まれる駆動力を「ほめられるためにがんばる」という行動原理は奪ってしまう。ほめて育てようとする人たちは、おそらく無自覚のうちに、そうして子どもを支配しようとしている。では、どうすればいいのか。ほめるのではなく、共に喜ぶこと。何かがうまくできたなら、一緒に喜んで子どもが感じている喜びを増幅する。そうして、その子が自分の内側から感じる喜びを引き出してあげるのだ。

この「ほめるのではなく、共に喜ぶこと」については、これまで子育て関連の書物や講演会などでも耳にしていたので、共感しながら読み進めました。私は、子どもが何かを為したとき、「〇〇ができたね！」(ほめる) + 「私もうれしいよ。」(一緒に喜ぶ) を組み合わせることで、子どもは、安心して次に向かっていく(たくましく育つ)のではないかと考えました。

あなたはどう思いますか？校長室で感想交流しませんか。・・・本文には続きがあります。

振り返って、私たち大人はどうでしょう。いまでも自分の内側から、泉はこんこんと湧いているでしょうか。

冬休み、親子・家族で一緒に時間を過ごし、泉のように「うれしい！楽しい！大好き！」という感情が溢れてくるといいなと思います。

年内最後の学校だよりです。少し早いですが、「4月より大変お世話になりました。良い年をお迎えください。2026年もよろしく願いいたします。」